



夏の終わり、今年も SSOR が霞ヶ浦湖畔、国民宿舎「水郷」にて開催された。SSOR とは Summer Seminar on OR の略とかで、毎年8月の末にORの若手研究者、ORワーカー、大学院生等が参加して開かれる会合である。詳しくは本誌1977年11月号に常連の若山邦紘氏の解説があるが、要は学会の研究発表会ほど公式の会合ではなく、参加者相互の親睦をも目ざした勉強会といったものである。昭和40年に第1回の会合がもたれ、今回は第14回を数えるに至った。

今年はその開催地に特色があった。通常、涼しい山の上で開かれている。ところが今回は山を降り、海拔0メートルに近い平地で開催された。当然暑さが問題になる場所であり、省エネルギーの掛け声にもかかわらず、全面的に冷房に依存することとなった。この暑さと近くに何もない事情により、いや今年の参加者が真面目だったのかも知れないが、講演の聴講者は例年より多く、なかなか盛況であった。ちなみに参加者は部分的な参加も含めて80名、うち学生35名であった。

幹事校を筑波大学で引き受けることになってから、われわれはどのような特色を出すか議論したが、結局以下の2つの柱を考えることにした。1つは従来と同様、ORプロパーの一般テーマ、そしてもう1つのテーマを「政策科学」とした。理由は従来の事例報告が企業に関するものが多く、官庁関係が少なかったこと。また筑波大学、埼玉大学および神戸商科大学等で、新しい大学院が設立ないし設立されつつあるが、このような大学院の初期の成果を発表させるには、「政策科学」というテーマが適していると思われたからでもある。

《第14回 SSOR プログラム》

8月27日(月)

Numerical Inversion of Laplace Transforms

木村俊一(京都大)

Thinning による点過程のシミュレーションについて

尾形良彦(統数研)

Perishable Inventory Control 能勢豊一(大阪大)

組合問題計算上の複雑さについて 大山達雄(電力中研)
特別講演 (午後)

Strongly stable stationary solutions in nonlinear programs 小島政和(東工大)

火力発電所の熱利用システム構想 中村 理(三菱総研)

ゲーム論のフロンティアと応用 武藤滋夫(東工大)

大相撲における星取表分布に対する確率模型

鈴木義一郎(統数研)

8月28日(火)

光化学オキシダントと地域環境政策 野口准史(筑波大)

ターンパイク定理と長期経済計画 佐藤英人(筑波大)

環境政策形成を支援する情報交流システムの構想—国立

公害研究所:ELMES の紹介— 原科幸彦(公害研)

大学進学希望率規定要因の分析 山本真一(文部省)

〔午後は、見学会、筑波研究学園都市の見学(とくに筑波大、公害研を中心として)〕

特別講演 政策科学の課題 宍戸駿太郎(筑波大)

8月29日(水) (午前のみ)

地域開発における周辺社会対策の研究

—鹿島開発の事例研究— 片岡正昭(日本IBM)

排水処理費用の配分問題について 渡辺 健(横浜市)

通産省における情報管理について 三上喜貴(通産省)

.....

3日間の講演を通じて感じたことは、どの講演も熱演であり、1題45分では時間が足りなかったことである。もう少し講演を減らし、充分討論ができるようにしたほうが SSOR の本来の主旨からも良かったのではないかと反省させられた。

なお、毎年大挙して参加する大学が4校あり、名をあげると京大、阪大、東工大、慶大であるが、今年はこれから阪大が欠け、代わりに早大と筑波大が加わった。幹事校である筑波大は当然のこととして、早大には来年の幹事校を、という含みがあった。幸い、快くお引き受けいただいたので、来年の事務局長は早大システム科学研究所の村越稔弘氏であることをここに公表しておく。

最後にご援助いただいた日科技連、お世話になった各方面の方々、および参加者の皆様には心から感謝の意を表する次第である。

(第14回 SSOR 事務局 筑波大学 腰塚武志)